

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2022年度)

専門分野区分	簿記会計	科目名	原価計算 I					科目コード	T1810A1	
配当期	前期	授業実施形態	通常					単位数	4 単位	
担当教員名	河本 順子	履修グループ	2I(BO)					授業方法	講義	
実務経験の内容	約10年間会計ソフト及び簿記について、企業や官公庁への指導経験を活かし、原価計算について実務で活用できるように講義する。									
学習一般目標	原価計算は製品やサービスを提供するためにかかった費用を計算することである。原価は、材料費や社員の労務費など製品・サービスの提供のために発生する費用、販管費や家賃なども含まれる。企業で原価を把握することは、商品の販売価格の決定や経営計画にまで影響を与えるため非常に重要である。本授業では、日本商工会議所主催の日商簿記2級(工業簿記)の基礎から応用レベルの知識を修得し、実務で活用できることを目指す。									
授業の概要および学習上の助言	工業簿記の基礎 製造原価の詳細 分類ごとの計算方法 問題演習									
教科書および参考書	サクッとわかる日商2級 テキスト 工業簿記 ネットスクール出版 サクッとわかる日商2級 トレーニング 工業簿記 ネットスクール出版									
履修に必要な予備知識や技能	1年次後期に学習した工業簿記の知識を有していることが望ましい。									
使用機器	電卓									
使用ソフト										
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1/2	製造原価の定義、製造間接費の配賦を説明できる。								
	1/2	総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算及び個別原価計算ができる。								
	3	授業に意欲をもって取り組むことができる。								
	5	授業に意欲をもって取り組むことができる。								
	4	なし								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解	30	10						40
		2.思考・判断	20							20
		3.態度							20	20
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
	総合評価割合	50	10					40	100	
評価の要点										
評価方法	評価の実施方法と注意点									

試験	定期試験期間中に試験を行う。
小テスト	授業期間中に小テストを行う。
レポート	
成果発表(口頭・実技)	
作品	
ポートフォリオ	
その他	授業態度(集中して授業を受けているか)及び授業参加(積極的に発言しているか)により評価する。

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 第1章 工業簿記の基礎 1～4節 第10章 費目別計算の応用 34～35節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第2回	第2章 費用別計算(基本編)5、6節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第3回	第2章 費用別計算(基本編)7～8節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第4回	第3章 製造間接費の配賦 9～11節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第5回	第4章 総合原価計算の基礎 12～15節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第6回	第4章 総合原価計算の基礎 16～17節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第7回	第5章 総合原価計算の応用 18～19節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第8回	第5章 総合原価計算の応用 20節 第6章 標準原価計算 21節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第9回	第6章 標準原価計算 22～25節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第10回	第7章 CVP分析と直接原価計算 26～29節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第11回	第8章 個別原価計算 30～31節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第12回	第9章 部門別計算 32～33節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第13回	第11章 本社工場会計 35節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第14回	課題解決型授業1 授業で学んだ内容に関する課題 ※詳細は別途指示	遠隔授業 実施時期:1期(5/16-5/31)	授業内容を復習

第15回

課題解決型授業2
授業で学んだ内容に関する課題 ※詳細は別途指示

遠隔授業
実施時期:3期(6/16-
6/30)

授業内容を復習